

経済建設常任委員会

視察報告

視察日 8月30日から9月1日

大山町の行政施策の参考となる事例を学ぶため、長野県周辺で視察を行いましたので、内容を要約してご紹介します。

【ながのフィルムコミッション】

行政が中心となり、観光協会と連携しながら活動をしている。観光情報の発信により、誘客へとつながる効果は絶大である。

全国的に知名度がまだまだ高くない大山町にとって、フィルムコミッションは、検討に値する事案と確信した。



【妻籠宿（つまごじゅく）】

重要伝統的建造物群保存の先駆的な取り組み地区。大山町でも、重要伝統的建造物群保存への取り組みが始まっており、住民への理解と協力で観光にもよい影響があると感じた。

【菅平高原】

80年の歴史がある、日本最大級のスポーツ合宿地。合宿客の誘致は、行政からではなく、民間宿舎経営者が独自で始めてきた。グラウンドも、民間の宿泊施設などが自前で整備しているものがほとんど。畑を利用した約100面の芝グラウンドで、高校や大学のスポーツ合宿を数多く誘致している。



【善光寺門前町】

有名な善光寺の仲見世は、浅草と同じ雰囲気。年間600万人の観光客を受け入れている余裕の表情が各店舗にあ

あった。

【おひさま進歩エネルギー会社】

エネルギーの地産地消をめざしたNPO法人が出発点。市民の出資でエネルギーの地産地消に取り組み、地球温暖化防止の意識を高めることに成功している。

この会社は、2005年に「南信州おひさまファンド」を設立。市民や全国の人から出資を募り、太陽光発電と省エネ事業に投資する仕組みで、保育園、公民館などの公的施設37カ所に太陽光発電設備を設置した。

